



メバチ

中西部太平洋

主な漁業と漁期

まき網(冷凍): 周年(未成魚・成魚)
はえ縄(生鮮): 夏～秋(成魚)

生態

刺身として最も一般的に利用されています。まき網で漁獲される小型個体は缶詰などの加工原料となっています。

●分布・回遊

太平洋の南北両半球の北緯40度未満のほとんどの水域に分布します。稚魚の多くは熱帯や亜熱帯に留まるものの、一部は温帯域へ索餌回遊し、成熟すると産卵に適した水温の高い水域に戻ります。

他のまぐろ類より深層に分布することが知られています。

●産卵期・産卵場

産卵は、熱帯・亜熱帯域の水温24℃以上のほとんどの水域でほぼ周年行われていると考えられています。場所によって産卵ピークが異なり、中西部太平洋では赤道の北側で4～5月、南側では2～3月、東部太平洋では赤道の北側で4～10月、南側で1～6月が盛期となっています。

●成長・成熟

成長は1歳で体長50cm、2歳で84cm、3歳で109cm、4歳で129cm、5歳で145cmに達します。寿命は10～15歳と考えられています。

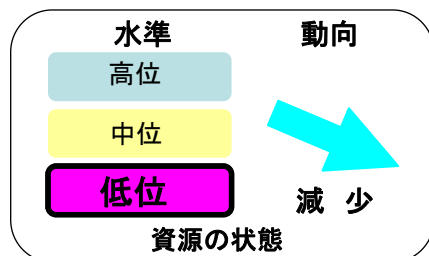
生物学的最小形は90～100cm、14～20kg(2歳の終わりから3歳)と報告されています。

体長(cm)	体重(kg)	体長(cm)	体重(kg)
40	1.6	120	39.5
60	5.3	140	61.8
80	12.2	160	91.1
100	23.3	180	128.2

体長と体重の関係

漁業・資源動向

【資源】



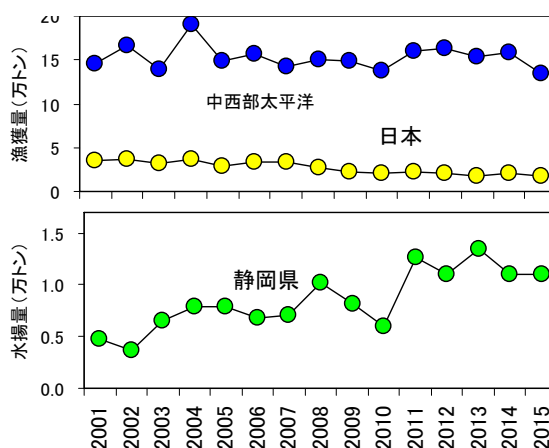
- 1 産卵資源量、性比、年齢別成熟率、一回当たりの産卵量、産卵回数情報を考慮した産卵可能指数 (Spawning potential) は1970年代から減少傾向にあります。
- 2 1990年代から、まき網による漁獲量が増加し、1990年代に入ると、主に小型魚を漁獲する集魚装置 (FADs) を使った操業が発達しました。FADs操業による資源への影響が懸念されています。
- 3 最新の資源評価(2014年)では、現在の資源は過剰漁獲の状態にあり、乱獲状態であると報告されています。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

http://kokushi.fra.go.jp/H28/H28_17.pdf

【漁業】

- 1 2001年以降、太平洋全体では年間13.6～19.1万トン、日本では年間1.7～3.7万トンの漁獲量で推移しています。また、静岡県への水揚量は、0.4～1.4万トンで推移しています。
- 2 静岡県沿岸では、曳縄や沿岸竿釣り船によって、未成魚がキハダに混ざって漁獲されます。



中部太平洋と日本のメバチの漁獲量の推移(上)と
静岡県のメバチの水揚量の推移(下)

担当者の一言: 最も一般的な刺身用マグロ(赤身)です。地域によって、ダルマとも呼ばれます。

問合せ先

静岡県水産技術研究所資源海洋科 054-627-1817